特集

健康長寿に有用活用可能な沖縄・奄美伝統の機能性食品素材のエビデンス

最近「人生 100 年時代」というキーワードを目にする機会が増えている．例えば，アマゾンウェブで「人生 100 年時代」のキーワードで書籍を検索すると，300 件以上がヒットする (2019 年 10 月時点)．このキーワードが急速に社会に広まったきっかけは, 平成 29 年に内閣官房に「人生 100 年時代構想推進室」が設置され, 9 回まで開催された「人生 100 年時代構想会議」に起因すると考えられる．この会議の趣旨は，人生 100 年時代を見据えた経済・社会システムを実現するための政策のグランドデザインにかかわる検討を行うことである．

人生 100 年時代を充実して過ごすための課題は健康であるとされる．現在の平均寿命は下がっているが，かつての健康長寿時代の沖縄に学ぶべきである．健康寿命を全うするのに必要なことが何であるかを知るためには，長寿日本一を宣言している沖縄県大宜味村が参考になるであろう．沖縄の長寿の要因として知られているのは食事，運動，精神状態，社会環境といったことが挙げられている．その中で，大宜味村は今も伝統的食生活として，身の回りの野草や薬草を積極的な健康管理のために取り入れている．

今回は，沖縄において健康長寿を目的に使用実績があり，成分や動物やヒト試験での科学的根拠が近年明らかになっている, 次の 3 つの素材の総説を掲載する. 1）黒ショウガ由来メトキシフラボノイドの多様な生理機能，2）天然素材ならではの魅力をもつ「宮古ビデンス・ピローサ」の紹介，3）肥満関連病態に対する長命草・ボタンボウフウの機能性．いずれもその有効成分やヒト試験におけるエビデンスが明確に解明されつつある．これらの 3 素材の情報が，本誌における掲載によって広く紹介・提供されることにより，健康長寿につながることを期待する．

禹　済泰（中部大学応用生物学部）